

- 近年、気候変動の影響により、これまでに経験したことのない豪雨による洪水や土砂災害等の気象災害が多く発生。
- 陸路が寸断し孤立化した被災地において、緊急物資や救援部隊、被災者等の海上輸送の事例が増えつつある。
- こうした状況を踏まえ、“みなと”の機能を最大限活用した災害対応のための物流・人流ネットワークを「命のみなとネットワーク」と名付け、各地域で、防災訓練の実施などネットワーク形成に向けた取組を進めていく。

「命のみなとネットワーク」の主な機能

【支援物資輸送拠点】



H30年7月豪雨時の物資輸送
(広島県中田港)

【被災者の救援輸送拠点】



R3年8月大雨で孤立した地域で
住民輸送を実施 (青森県風間浦村)

【生活支援拠点】



H28年熊本地震発生後、官公庁船から
市民への給水を実施 (熊本県熊本港)

「命のみなとネットワーク」形成に向けた取組

【国土交通省・市町村等による防災訓練の実施】

“みなと”を活用した物資輸送や被災者輸送等の防災訓練を定期的実施。



R3年10月に浜名港で実施した、船舶を活用した緊急物資輸送・被災者輸送訓練

【「命のみなとネットワーク」の形成に向けて ～ “みなと” を活用した災害支援事例集ver1～の作成】

“みなと”を活用した災害対応支援を行った過去事例をまとめたもの。



主な事例① 支援物資輸送拠点
○道路交通網が寸断された被災地まで、海から支援物資の緊急輸送を実施。
H30年7月豪雨 (広島県 安芸郡) R元年青森半島台風 (千葉県)
H30年北海道胆振東部地震 (北海道)
○小規模に、船隻が「はつらつ」で支援物資を海上輸送。船員がトラック輸送し、支援物資を降ろし、厚真町への支援物資の引渡状況。

主な事例② 被災者の代替輸送拠点
○海上交通が寸断された地域で、海上交通により被災者の代替輸送を実施。
H28年北海道胆振東部地震 (北海道)
H30年北海道胆振東部地震 (北海道)

主な事例③ 生活支援拠点
○被災地や被災地を離れて、船が給水・給食・給薬の支援を実施。
H28年熊本地震発生後、官公庁船から市民への給水を実施 (熊本県熊本港)

主な事例④ 広域支援拠点
○複数の船運利用に連携が及ぶような大規模災害発生時に、緊急物資輸送の中間拠点や広域支援拠点を開設し、被災地や被災地を離れて、船が給水・給食・給薬の支援を実施。